

委員からのメッセージ

■岡辺 重雄 会長（福山市立大学 副学長）

我が国の住宅政策は長年にわたり、住宅不足の解消を進め、加えて住宅確保要配慮者の範囲を拡充してきました。そして、量的に充足してきた現在では「住生活基本法」のもと、住宅を通して豊かなライフスタイル（住生活）の実現を目指すことも重要な課題となっています。府中市住生活基本計画は、地方都市でのライフスタイルを考える中での住宅のあり方を探りました。例えば子供を育む期待が高まるような住宅を実現していくことや、福祉分野などと連携しながら住宅確保要配慮者の住生活を支えていくことなどです。官民の知恵とチーム力を結集して計画を実施していくことが期待されます。

■岡部 真智子 会長代理（福山平成大学 教授）

府中市住生活基本計画は、従来のように住宅整備を中心に据えた計画ではなく、市民の皆さんの住生活、暮らしを支えるための計画として策定されました。

住生活基本計画を策定する市町村がまだ限られている中、府中市でこのような計画がつくられたことは大きな意義があります。委員の皆さんで、府中市を住みよいまちにするためにと議論した内容が盛り込まれた計画なので、今後一つ一つの取組みが実現していくことを強く願っています。

■吉田 倫子 委員（県立広島大学 講師）

計画案を協議する委員会ではさまざまな課題が指摘され、課題解決の方策も提案されました。本計画だけではすべての課題解決はかないませんが、基本理念である『「住みたい・住み続けたい」府中らしい豊かなライフスタイルの実現』には目指すべき将来像が示されています。住宅はすべての基盤です。具体的な取組を検討する際には、基本理念に沿っているかどうか、市民一人一人のその人らしい人生を支えるものであるかを考えていただきたいと思います。

■藤田 佳浩 委員（もみじ銀行府中支店長）

私はこれまで転居生活が続き、中国地方に加え、九州、四国、関西に住んできたなか、広島県府中市に移住して2年余りが経過しました。

私自身に加え、同僚たちも転勤族の社員が多いのですが、皆一様に自然豊かで利便性が高く、何よりも人情溢れるまち「府中」に実際に住んでみて、その住み心地の良さを実感しています。特に子育て支援に関しては、他の市町村と比較しても断然にお薦めできると感じています。

今回の「府中市住生活基本計画」のように、府中市は幅広い意見を聞く耳を持たれている自治体です。そして一度住むと、この府中から離れたくないと思えるような素敵なまちです。

本件計画策定およびその実践を機に、更に住み良い住生活の実現を期待しています。

■中山 聖子 委員（ネウボラ利用者代表）

私は、結婚を機に府中市に移住しました。「子育てステーションちゅちゅ」を利用しているご縁で、住生活基本計画の委員を依頼されました。とてもびっくりしましたが、子育て世帯の代表者だと思い、委員を引き受けました。

議論の内容は、幅広いものでしたが、子育て世帯への支援の話が多くありました。特に、提案された子育て専用市営住宅は、小さな子どもがいる世帯やこれから子育てを始める世帯へ、とても手助けとなる住まいだと思ひ、ぜひ実現していただきたいと願います。

そして、府中市が住生活基本計画の理念にある「子育てがしやすい環境」へ整備されることを期待しています。

